

2019 年度調査研究事業
女性の労働に関する調査研究事業
起業女性のニーズ調査
～起業準備段階から軌道に乗るまでの課題と
求める支援に関して
(中間報告 2)

一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団

2020 年 3 月 31 日

2019 年度調査研究事業

女性の労働に関する調査研究事業

起業女性のニーズ調査

～起業準備段階から軌道に乗るまでの課題と求める支援に関して
(中間報告 2)

■ 目次 ■

1. 経緯	p 1
2. 本調査研究事業の目的	p 2
3. 受託事業「起業スターターズ・プロジェクト」の概要	p 2
4. 2018 年度実施調査の概要	p 4
5. 2019 年度実施調査の概要	p 5
6. 中間報告まとめ	p 9
7. 附属資料	p 10

1. 経緯（2018 年度調査研究事業 中間報告より）

1) 自由度が高く専門性を活かせる働き方としての起業

現在、就業者の中で最も多くを雇用労働者（2014 年女性 89.3%・男性 87.2%）が占め、一方で自営業主の割合は少ない（2014 年女性 5.2%・男性 11.4%）。¹ 雇用労働者はさまざまな法律に守られて安定しているが、労働時間や勤務場所などの制約が多く自由度は少ない。そのため固定的な性別役割分業意識を背景にして、働く意欲があっても家事・育児・介護および夫の転勤などを理由に雇用労働に留まることができない女性が存在する。

さまざまな事情を抱えているために雇用労働という働き方に合わせられない女性の中で、自分の持つ能力を活かしたいと思う女性ほど、自由度が高く専門性を活かせる起業という働き方に魅力を感じるのも当然だと思われる。更に、近年のインターネットの発達によって少額の投資で起業を始められる環境が整ってきたことも、起業という働き方への関心を高めていると考えられる。

2) 起業をめざす女性への支援事業に取り組んで

当財団が、起業をめざす女性支援を中期的に行う契機となったのは、豊中市の「地方創生推進交付金事業一億総活躍社会実現のための豊中市チャレンジ就労支援事業『結婚・出産等で離職した女性の就労促進事業』業務」の受託であった。この事業は、再就職をめざす女性を対象にした事業と起業をめざす女性を対象にした事業の2事業から成り立ち、2016 年度から 2018 年度までの3年に及んだ。

すてっぷ設立当初から、女性の就労支援事業として社会情勢などを考慮しながら多様な対象と内容の事業を実施してきた。起業をめざす女性を対象とした事業についてはしばらく実施していなかったため、本事業の初年度は、外部の関係機関などの協力を得て近年の女性起業家の傾向をつかみ、プログラムの構成や講師の人選などを検討しつつ事業を実施した。

3) 3年間の事業を振り返り今後に活かす

実際に起業している女性が少ない中で、起業をめざす女性たちに必要なものとして「専門家からのアドバイス・先輩女性起業家との出会い・起業をめざす仲間とのつながり」を想定し、3年間の事業を実施してきた。

事業を終えた今、これまでも振り返り、参加者にとって効果的な事業であったのかをこの調査研究事業で確認したい。そのうえで、今後の事業として何ができるのかを考える手がかりとしたい。

¹ 『男女共同参画白書 平成 27 年版』 内閣府 2015 年

2. 本調査研究事業の目的（2018 年度調査研究事業 中間報告より）

起業という働き方を選択した女性の現状を把握することをおして、これまで受託事業として行った、起業をめざす女性を支援する事業を検証する。さらに、調査対象を受託事業の修了生以外にも広げ、起業をめざす女性の課題と求める支援ニーズを明らかにし、今後の財団事業に活かし、豊中市の関係機関にも情報を提供する。

起業をめざす女性が自らの起業をどのように考えているのかを明らかにするとともに課題を整理し、今後の事業を展開する際の根拠となる基礎データとする。

3. 受託事業「起業スターターズ・プロジェクト」の概要（2018 年度調査研究事業 中間報告より）

1) 地方創生推進交付金事業一億総活躍社会実現のための豊中市チャレンジ就労支援事業「結婚・出産等で離職した女性の就労促進事業」業務の概要

i) 地方創生推進交付金事業の趣旨

本事業においては、市は安定した雇用や地方への新しい人の流れ等の創出に向けて、地域の特色や地域資源を活かした住民に身近な施策を実施することとなっており、受託者は事業の実施にあたっては地方創生推進交付金制度要綱及び国の関係機関通知のほか、以下の記載事項を遵守し業務を実施すること。

ii) 基本的な考え方

本事業は、結婚・出産等で離職した 30～40 代の女性を対象として、ICTスキル等を引き上げ、再就職や起業を推進するものである。

iii) 事業内容

- ・豊中市や公共職業安定所等と連携を図りながら、再就職や起業に関する相談支援を行うこと
- ・パソコン操作やWEB活用といったICTのスキルアップに繋がる講座の開催や就職活動に必要な情報提供を行い、再就職支援を行うこと
- ・起業に必要な知識やノウハウを学ぶための講座を開催し、女性の社会参加を促進すること

iv) 実施事業…異なる2つの就労をめざす女性を対象に、それぞれに対応した支援事業を実施。

①女性の再就職支援「お仕事リターンズ・プロジェクト」

②女性の起業支援「起業スターターズ・プロジェクト」

v) 「起業スターターズ・プロジェクト」実施期間…2016 年度から 2018 年度の3年間

- ・2016年度 11月～2017年3月
- ・2017年度 9月～2018年2月
- ・2018年度 10月～2019年1月

vi) 「起業スターターズ・プロジェクト」のプログラム詳細（年度単位）

- ・女性の起業プレ講座（全1回）…起業した女性の体験談
- ・女性の起業連続セミナー（全10回）…事業計画・販売戦略・Web活用・資金計画・社会保障・フェイスブックの使い方等を各専門家の講師から学び、自分の起業プランを発表
- ・グループ相談会（全7回）…起業の悩みを複数で起業連続セミナーの各講師に相談し情報を共有
- ・個別相談（全2回）…起業の悩みを個別に専門家に相談
- ・出店フェア（2016年度と2017年度1回・2018年度2回）…すてっぷでの出店

vii) 起業支援「起業スターターズ・プロジェクト」実施結果

- ・参加人数

	参加人数			
	2016年度	2017年度	2018年度	計
女性の起業プレ講座	40	37	36	113
女性の起業連続セミナー	35	35	27	97
グループ相談会	66	38	35	139
個別相談	13	9	10	32
出店フェア	24	24	65	113
計	178	143	173	494

- ・女性の起業連続セミナー修了生の出店人数（単年度末ごとの集計）

	2016年度	2017年度	2018年度	計
出店フェアへの出店人数	24	10	13	47

4. 2018 年度実施調査の概要

1) 追跡調査の実施

2016 年度～2018 年度に財団が実施した「起業スターターズ・プロジェクト」の中のメイン事業である「女性の起業連続セミナー」の修了生に往復はがきでの追跡調査を実施した。

修了生の起業の現状を確認し、あわせて「女性の起業連続セミナー」のプログラムの効果を確認した。

2) グループインタビューの実施

「女性の起業連続セミナー」修了生を対象にグループインタビューを行った。

「セミナー受講中もしくは受講後に起業し、継続中の修了生」と「これから起業したいと思っている修了生」にグループ分けし、起業に向けた動きや抱えている課題、目標とその達成に必要な要素ついて聞き取りをした。

5. 2019 年度実施調査の概要

1) 経緯

2018 年度調査研究事業で実施した女性の起業連続セミナー修了生（以下修了生）への追跡調査では、起業したい意思はあるがまだ起業に至っていないとの回答が 4 割近くになった。また、2018 年度に実施した修了生へのグループインタビューでは、家庭環境や家事育児への意識が起業状況に影響していることがわかった。そこで、子育て中の女性起業家へ個別インタビューを行うこととした。

2) 調査目的

女性が起業するにあたり、家庭環境や家事育児がどのように影響するかを明らかにする。また、起業した女性がワーク・ライフ・バランスをどのように捉えて実践しているかを明らかにする。

3) 調査概要

i) 対象

以下の条件を満たす修了生に協力を得た

- ・ 起業し、継続中である
- ・ 未就学の子どもがいる

ii) 協力者決定の過程

以下の手順で個別インタビューの協力者を決定した。

- ①受講年度ごとに条件を満たす修了生をピックアップし、協力を依頼
- ②承諾を得た 3 人に決定

iii) 実施方法

個別インタビュー当日、調査目的や進め方などを記載した個別インタビュー協力者事前確認シートを調査者が読み上げ、説明し、協力者の同意を得た確認としてシート 2 部に署名をしてもらい、協力者とすてっぷで 1 部ずつ保有した。

座席配置は、協力者と調査者が向かい合ってテーブルにつく形にした。インタビューのガイドラインを説明した後、個別インタビューで使用する名前を決めてもらった。

<配布物>

- ・ 調査研究事業「女性の起業スターターズ調査」個別インタビューにご協力いただく方へ（事前確認）

<進め方>

- ・調査者 1 人で進行
- ・個別インタビューの目的を説明
- ・個別インタビューのガイドラインを説明
- ・個別インタビュー協力者事前確認シートによる協力の同意確認
- ・協力者に公開してもよい名前を決めてもらう
- ・インタビューの実施

4) 調査結果の概要

i) 協力者

	D・A	桑野 順子	黒田 久美子
受講年度	3 期(2018 年度)	2 期(2017 年度)	1 期(2016 年度)
起業した年	2019 年	2017 年	2017 年

ii) 実施状況

	D・A	桑野 順子	黒田 久美子
実施日時	2020 年 2 月 7 日(金) 16:00～17:00	2019 年 2 月 10 日(月) 14:00～15:00	2020 年 2 月 13 日(木) 10:30～11:30
実施場所	とよなか男女共同参画 推進センターすてっぷ	とよなか国際交流セン ター	とよなか男女共同参画 推進センターすてっぷ

iii) 主な聞き取り項目

①家族構成

- ・夫について
- ・子どもについて（人数、年齢）
- ・親について
- ・夫の親について

②起業状況

- ・事業内容
- ・場所（自宅、もしくは自宅以外等）
- ・就労時間
- ・収益（目標に達しているか）

③起業と家族について

- ・雇用労働ではなく起業を選んだ理由

- ・起業前の準備
- ・家族の理解や協力
- ・家族への働きかけ
- ・子どもについて
- ・家族、子どもの存在がプラスになること

④その他

- ・必要な公共サービス
- ・今後について

iv) 個別インタビュー結果の概要

個別インタビューの全文は附属資料に掲載。

①家族構成

	D・A	桑野 順子	黒田 久美子
夫	いる	いる	いる
子ども	4歳半 出産予定あり	小学1年生 1歳10か月	小学1年生 4歳
実親	愛知県	愛媛県	市内
夫の親	遠方	岸和田市	京都府

②起業内容

	D・A	桑野 順子	黒田 久美子
起業内容	ベビーラップアドバイザー	バースデープランナー ママフォトグラファー	フットケアサロン
場所	出張	自宅 出張	自宅とは別に賃貸 出張
就労時間	週に1回～3回 (現在産休中)	月1回	予約制で16:00まで 日曜定休
収益	目標に達していない	目標に達していない	目標に達していない

③起業と家族について

	D・A	桑野 順子	黒田 久美子
起業を選んだ理由	夫に転勤がある 自分のペースで働きたい(夫や子どもを優先する)	好きな事を仕事にした い 子どもがいても融通が利く	長年起業をめざしていた 子育てをしながら日・祝出勤の仕事は難しかった
起業前の準備	資格取得 起業セミナー受講	養成講座に参加 起業セミナー受講	技術取得の学校に通う 関連する仕事につく 資金を貯める 起業セミナー受講
家族の理解・協力(夫)	積極的ではない 協力を得るのは難しい 土日は子供の面倒を見してくれる	仕事の調整ができるときは協力してくれる	協力は仰がなかった
家族の理解・協力(親)	遠方のため難しい	夫の親に子どもが病気の時に預かってもらった	実親に子どものサポートをしてもらうことがある
家族への働きかけ	途中から夫の説得はしていない	夫に説明はしていないが、仕事としてやっていることは伝わっている	働きかけてはいない
子どもについて	子どもの状況に合わせて働いている 民間保育を利用 預け先がネックになっている 子連れで仕事に行くこともある	子どもの状況に合わせて働いている 一時保育を利用 学童は利用していない 子連れで仕事に行くこともある	子どもの状況に合わせて働いている 幼稚園を利用 学童を利用 子連れで仕事に行くこともある
家族、子どもの存在がプラスになること	子どもがいたので起業を選んだ 家庭円満でいられるように仕事量をセーブできている	子どもがいるから事業が成り立っている 家族があるからこそその仕事	今の子どもたちの状況を知ることができる 自分も子どももお互いの世界が持っている

④その他

	D・A	桑野 順子	黒田 久美子
必要な公共サービス	子どもの預け先(緩やかな条件で利用できるもの)	単発や仕事をしていなくても利用できる学童	6年生まで利用できる学童 学童や中学生の給食 起業に関する情報提供
今後について	より家庭の比重が増える	週に2、3回一時預かりを利用して仕事を広げたい	顧客を増やす 地域に密着していきたい

6. 中間報告まとめ

1) 個別インタビューから見えたこと

子育て中の起業女性である協力者は共通して、家族（夫、子ども）に合わせて就労時間や事業内容を計画しており、家庭の状況が起業女性の働き方に大きく影響することが明確になった。性別役割分業意識が根強い環境の中で起業を実現し、生活と仕事のバランスを探りながら事業を継続している現状を聞くことができた。

2) 今後の調査について

2018 年度の調査で見えてきた女性の起業とその家族の状況との密接な関係が、今年度の調査でさらに明らかになった。ジェンダーの課題をすくい上げて女性をエンパワメントしながら、家事や育児を中心的に担っている女性に対して実現可能な起業の形を提案することで、課題解決につながれると考える。

2020 年度はこれまで実施してきた追跡調査、グループインタビュー、個別インタビューを更に分析し、本報告を行う。

7. 附属資料

1) 個別インタビュー詳細

D・A：p 11～p 21

桑野順子：p 22～p 29

黒田久美子：p 30～p 42

2020年2月7日 D・Aさんインタビュー

藤長：今日はよろしくお願いします。

DA：よろしくお願いします。

藤長：2018年度の第3期に「女性のための起業セミナー」を受けていただいたので、受講後2年目に入りますね。今はおいくつでしょうか。

DA：37歳です。

藤長：では、家族構成を教えてくださいませんか。

DA：夫と4歳半の子どもと、次の4月に出産を予定しています。

藤長：ご両親はいかがでしょう。頼ることはありますか。

DA：私の実家は愛知県ですが、介護などをしてるので、こちらにはほとんど来られない状況です。

夫の実家も遠方で、頼れば来てくれるのですが、実の親を頼るほどの気さくさは、なかなかないですね。

藤長：いざという時でないと難しいですか。

DA：「ちょっと来て」みたいな感じではないですね。

藤長：次に起業の概要についておうかがいしたいのですが、以前（2019年3月）に一度インタビューさせていただいた時には、すでに起業されていました。

DA：そうですね。その時は「ベビーラップアドバイザー」といって、赤ちゃんとお母さんの両方にとって、健全で快適な抱っこの仕方をお教えしていました。今は、4月に出産を控えているので、少しお休みに入っています。

藤長：抱っこの仕方のレクチャーということは、講習会をされているのでしょうか。

DA：そうですね。講習会がメインです。私自身が長男を出産後に体調を崩して、抱っこをしたいのに自分の体がうまく動かないのと、抱っこの仕方そのものもよく分からなくて、悩んだ経験があります。自分の体が動かない、プラス抱っこの仕方もよく分からなくて長男は泣いている、みたいな感じの「二重苦」で、泣いた日々が多かったのです。自分の体は時間とともによくなっていきましたが、抱っこの仕方は、勉強しないといつまで経っても正しくできません。慣れるものかなと思ったのですが、慣れたけれど快適ではない間違った抱っこになっていました。勉強していくと、正しい抱っこは赤ちゃんにとっても快適で、すぐ寝てくれるということも分かりました。

藤長：そうなんですね。

DA：私は抱っこについて勉強した分だけ、すごく育児が楽になり、自分の体の回復も早かったのです。そういった経験があるので、抱っこで困っている人はほかにもいるのではないかと思います。産院では、母乳のことや赤ちゃんの周囲にある危険については教えてくれるのですが、抱っこそのもののやり方は、意外と教えてもらえないことが多いです。私もこの仕事を始めてから、助産師さんが受講しに来てくださることがけっこう多いのですが、助産師さんだから当然知っているだろうと思ったら、助産師になるための勉強の中には、正しい抱っこの仕方というのはほとんど

入っていないらしいのです。受講後、「勉強になった」と喜んで下さる方もいらっしゃいました。

藤長：助産師さんがいらっしゃるんですね。

DA：私は世界でエビデンスの取れたデータを使って紹介しているので、信ぴょう性があると思ってもらえるようで、実践してみたら本当によかったと喜んでくれます。助産師さんから困っているママをを紹介していただくこともけっこうあり、軌道に乗ってきたところでした。産休に入ってしまうのですが…。

藤長：産休に入られる前は、定期的に講習会を開かれていたのですか？

DA：そうですね。豊中にある、ママと赤ちゃんにとって居心地のよいカフェで定期的に開催させてもらっているほか、その日程に合わなかった人向けに、千里中央の自宅近くのカフェを借りて、そこで個別講習していました。また、豊中市内であれば出張講習という形でご自宅に伺うこともありました。

藤長：だいたい、月にどれくらいされていたのでしょうか。

DA：すべて合わせてもそれほど稼働していたわけではなく、週3回稼働すればすごく多いという感じでした。平均すれば週1回くらいだったと思います。

藤長：やはり講習会だとまちまちになりますか？

DA：そうですね。赤ちゃん連れでの講習になりますので天気や気温にも多少左右されますし（真夏や真冬は参加者が少ない）、まだまだ「ベビーラップアドバイザー」や「正しい抱っこの仕方を習

う」ということが一般化していないので…。

藤長：その中で、週1回から3回くらいされていたということですね。事業を展開するために事業計画を作られると思うのですが、目標額は決めていましたか？

DA：正直なところ、前回の悩みでもお伝えしたのですが、なかなかボランティアの枠を超えられないというのは、今も課題ではあります。

藤長：はじめはボランティアで始められて、そこから事業に変えていこうとされているのでしょうか。

DA：そうですね。でも結局、今もなかなか変えられていません。いい感じで軌道に乗ってきたかなと思ったところで妊娠が分かり、つわりもひどかったので事業を発展させることができず、いまだにボランティアの枠を超えていません。次に出産して復帰する時には、この枠を超えたいと思っています。

藤長：出産をきっかけに。

DA：はい。

藤長：やはり「子育て教室」などがある分、利用者は無料に慣れている印象はありますか？

DA：それはありますね。「抱っこ」というのは、習わなくてもなんとなくできてしまうものなんですよ。それが「正しいか、正しくないか」、また「快適か、快適でないか」の問題はあるのですが…。あと、「抱っこは重いもの、つらいもの」と当たり前に思っている人が多いこともあります。「お金を払って抱っこを習う」という考え方は、まだまだ新しいものなのかもしれないですね。

藤長：楽になった方が口コミされることはありますか？

DA：口コミはけっこういただいでいて、「誰々さんから聞きました」というのはすごくありますね。口コミの場合は出張で伺うことが多いですね。

藤長：切羽詰まっているのでしょうか。

DA：そうですね。そういう方が多いかもしれません。助産院からの紹介などで出張講習の依頼を受けます。ネットを見て、という方はそこまで困っていない方が多い印象ですね。出張講習はどうしてもカフェでのグループ講習より費用が高くなってしまうので、そのあたりもあるかもしれませんね。それでも、口コミが口コミを呼んでくれることが多いのでありがたいですね。

藤長：次に、起業までどのように準備されたかの流れをお聞きます。以前のインタビューで、初めての仕事は雇用される形で働かれていたとうかがいました。

DA：そうです。

藤長：ご結婚を機にお仕事を辞められて、再就職をされて、今度は妊娠をきっかけに起業されたのでしょうか。

DA：そうですね。やはり一番の理由は、夫が転勤族だということが大きいです。就職したけれど夫の転勤についていけないといけない、辞めないといけない、新しい仕事を探さないといけないというのがありました。出産後に体を壊したものの、2人目の子どももずっと欲しかったですし、週5でフルタイムで働いていたら、いずれは辞めないといけないだろうというのがあるって、やはり転勤

と今後の妊娠・出産ということを考えると、自分のペースで働きたいとは思いました。

藤長：そのことを考えると、起業という形がフィットしたということでしょうか。

DA：そうです。あとは、どちらかというと夫は専業主婦でいてほしいタイプなのです。以前、息子が生まれるまでは雇用される形で働いていたのですが、仕事が楽しくなってしまって没頭してしまい、ちょっとした離婚危機のような、夫婦仲が悪かった時期があるので、家庭を壊さない程度に、自分のペースでやった方がいいかなと思いました。

藤長：ご自身でコントロールできる形で、ということでしょうか。

DA：はい。

藤長：夫さんの気持ちにも合わせて仕事をコントロールされていますか？

DA：そうですね。週1とか週3くらいしか稼働していなくて、ボランティアの枠でと言いましたが、おそらく我が家的にはそれくらいがベストなのだろうと思います。週5でフルタイムで働いて…

藤長：朝から晩までというのは考えていらっしゃるいませんか。

DA：そうですね。そこは家庭のことを考えると葛藤があります。

藤長：起業の準備でセミナーに通われたり、ボランティアで抱っこ講習を始められたりした時のご家族の反応はいかがでしたか？

DA：正直、あまりいい顔はしていなかったですね。子どもが小さくて、親元も遠いので、何かあった時に助けてもらえるわけではないですし…。でも私が楽しそうにやっているのと、家庭第一でやっているの、強く反対もされずというところはあります。

藤長：反対はしないけれど…

DA：積極的ではないです。今でもそうですね。まあ別に家族に影響がないならいいか…みたいな感じです。興味もあるけれど、あまりはまってほしくないと思っているだろうとは思います。

藤長：週3回くらいまでにおさめておいてほしいという感じでしょうか。

DA：そうですね。今は産休で休んでいるので、そのペースでいけばいいと思っています。今後も家族の協力を得るのは非常に難しいだろうと思います。私の場合は、親元が両方とも遠いですし、夫は非常に忙しく、土日はもちろん子供の面倒を見てくれていますが、平日は私でないといけないので、そこところは本当に難しいです。

藤長：そこを乗り越えて、セミナーを受講された動機は何でしたか？

DA：動機…やはり、子どもがいても家庭があっても自分がやりたいことはやりたいと思いました。

これまで「仕事」が家庭の危機の火種だったことが何度かありましたが、理由を考えると「自分のペースでやれない」からなのではと思います…。行きたくない出張や会食などもありましたしね。でも自分で起業すれば自分のペースで仕事がで

きるという強みは大きかったですね。もちろん、その分責任はついて回るし、雇用されているときと同等に稼ぐのはとても大変ですが…。正直、今は「起業しています！」なんて言えないくらい稼いでいないですが、今はこの働き方が私に合っているのではないかとと思っています。

藤長：生活の部分と仕事の部分と、すべてのバランスが今はベストの状態だと感じていますか。

DA：ベストの状態かもしれないですね。子どもがもう1人生まれて、フルタイムで仕事をして、またちょっと夫婦仲が悪くなるというのも、しんどいかなという気がします。

藤長：起業という形はご自身の希望にマッチしていたということでしょうか。

DA：マッチしていますね。あと、転勤によって場所が移動しても、自分のスキルで人と会うことができる。専業主婦で家にしかいなかったら、私の場合はちょっと鬱になりそうなのですが、あそこのカフェで講習会しようかなと考えたり、お客さんを募って、新しい方と週1回でも2回でも3回でもお会いするだけで、すごく楽しいです。ですから起業というのは非常に私のように家にじっとしているよりも、外で人と出会うことが好きな人には向いています。自分の好きなタイミングでできて、どのくらい働くかというのも自分で決められます。

藤長：起業の計画を立てられる時点から、お子さんやご家族の状況を中心に考えられたのですね。

DA：そこが中心ですね。前ははまだ妊娠しておらず、第一子が3歳、4歳、5歳でどんどん手が離れていくというイメージだったので、もっともっと広くやっていこうと思っていました。ただそ

の一方でずっと妊娠を望んでいたもので、今回、妊娠してまたペースダウンだなとマイナスに思うこともありつつ、でもまたこれでゆっくりやっていけばいいかと思えたのも、起業していたからかもしれないですね。

藤長：転勤があっても、技術と一緒に自分が移動していけるということですね。

DA：本音を言えばこの豊中で根を張って「抱っこのことだったらDに聞け」という存在になりたいとは思いますが、どうしても転勤がついて回るので、また新しい街で新規開拓していくのも、それはそれで楽しいのかなと思っています。

藤長：4月にお子さんがお生まれになって、上のお子さんや下のお子さんが少しずつ大きくなっていかれると、働き方は変わると思われますか？

DA：変わると思います。実際に、こんなタイミングではなかったら受けたかったビッグな話があったりして。

藤長：オファーが来て…

DA：でも今は受けられないなというのも、けっこうありました。例えば、すでに10人以上生徒が集まっている教室をやってほしいという話もあり、「えっ10人か、やりたいけど今は無理だな」とか、「このタイミングで…」とかあるので、やはり子どもが成長して手が離れてくれば、もっと仕事したいなとは思いますがね。

藤長：上のお子さんは4歳半で、次のお子さんが生まれると、お子さんを預けて講習会をされるのでしょうか。

DA：そうですね。その予定ではあります。これ

までも息子を預けて講習会をしたり、息子同伴ということもありました。赤ちゃんの抱っこをお教えしているので、実際の赤ちゃんがいた方が伝わりやすい場合もあり、連れて行ったこともあります。

藤長：そうして生活に合わせて準備されて、講習会などを始められたわけですが、準備しておいて役に立ったことはありますか？

DA：たとえばどういうことですか？

藤長：お子さんの預け先やセミナーを受けて準備したことで役に立ったことなどをうかがえれば。

DA：一時保育は、けっこう使っていたのでありがたかったですね。寝ている「ねんねちゃん」のうちはいいんですが、あちこちウロウロするようになると、触ってはいけないものを触ったりするので、連れて行くのもなかなか難しいのです。親にも頼れないので、一時保育ばかり使っていましたね。また、セミナーを受けてSNSを多用するようになりました。

藤長：一時保育は利用できますか？

DA：市のは全然ダメで、民間のものを利用していました。

藤長：市の分は予約がいっぱいでしょうか。

DA：いろいろな制限があって諦めました。もう少し取りやすければいいのと思います。

藤長：普段はお子さんは幼稚園に通っていますか。

DA：いえ、認可外保育園に預けています。

藤長：では逆に、準備が不足していたということは何かありますか？

DA：実際にはあったかもしれませんが、足りないことがあってはいけないので、事前にしっかり要望を聞くようにしています。

藤長：念入りに。そうするとほとんど不足はないですか。

DA：う〜ん、ないと思います。依頼者の方も私も時間が限られているので、事前に依頼者の方にアンケートをお願いするとみなさん詳しく書いてくださることが多いのでそれを先に目を通しておいて…

藤長：お互い無駄にならないように…

DA：やっていると思います。万一に必要な場合に備えて今日は使わないと思われるものも持って行くようにしています。実際には不足しているところもあるのですが…ないように最善を尽くしています。子どもが病気の時に突然キャンセルしないといけないのですが、病児保育の対策は全然していませんね。

藤長：急に預かってくれるところはありませんか。

DA：病児保育の登録に行っていないのです。私自身、何となく病気の子を置いて行けない気持ちがあって、登録すらしていない状態です。もう上の子が大きくなったので、それほどキャンセルが多いわけではないのですが、今までに3回くらいキャンセルすることがありました。

藤長：やはり子どもさんの状況というのは、お仕事に影響しますか？

DA：影響は大きいですね。でも欲ばりだと思うのですが、仕事と同様に子育ても自分が納得する形でやっていきたいと思っています。なので、私も小さな子どもがいるので子どもの体調不良などで突然キャンセルする可能性があることは事前に了承を得ています。もちろん相手の方も体調を崩しやすい小さな赤ちゃんがおられるので、キャンセル料は一切いただきません。

藤長：それがあって、起業という形を選ばれたということでしたね。

起業前にこういうことをしたいと夫さんに話されたということでしたが、実際に起業後の週1回とか2回程度なら、ご家族は問題ないという受け止め方をされていますか？

DA：聞かれない限りは、私の仕事の状態を話していないのです。向こうもそんなに聞いてこないもので、もう仕事のことは話さない方が円満なのではと思い、話していません。

藤長：あまりどういう状況かというのはご存じないのでしょうか。

DA：全然知らないと思います。

藤長：夫さんがお休みの時は、お仕事は入っていないのでしょうか。

DA：入っていないです。正社員として働いている時から、その約束だったのです。仕事が忙しくなってきた休日出勤などもあった時、そのあたりでいざこざがあった過去があるので、土日はよほどのことがない限り入っていないです。

藤長：たとえば働いているお母さんだと、土日の講習を希望される方もいらっしゃるいませんか？

DA：いらっしゃいますね。よほどでない限りは、同じような仕事をしている他の人に譲るか、夫が休日出勤の時に息子連れて行くかしています。

藤長：それは今後変化していくのでしょうか？

DA：どうなんですかね…？夫と少し仲が悪くなった時に、「私は今後、何を一番に生きていくのか」と自問したのです。仕事をしたいからそのまま突っ走るのか、夫が望むならそちらにいくのかと考えた時に、当時は子どももいなかったんで、突っ走ってもいいかなと思ったのですが、やはり家庭を大事にしたい思いが勝りました。子どもももう1人増えますし、子どもが増えれば増えるほど、おそらく今後も家庭への比重が大きくなると思います。

藤長：今は、夫さんに子どもを預けて講習会に行くとかは考えていないということですね。

DA：よほど大きい仕事でなければ…。相談してまったく乗ってくれないわけではないので、もし「これは」という大きい仕事の場合は、私が今まで全然仕事の話をしなかったのに、言ってきたというのはおそらく大きい仕事だと分かってくれるだろうと思うので、その時は相談してみようとは思っています。

藤長：ご家族のことをお聞きしてきましたが、ご両親も遠方だということで、ご家族以外で、たとえばお友達など協力してもらえる人はいますか？

DA：預けている先が保育所なので、皆、迎えに来る時間も違うし、働いている方も多くて、それほど他の保護者の方たちと親しくないのです。我が家が転勤族でもともと地域に根付いているわけではないので、ほぼいない感じですね。

藤長：お子さんを預けられるほどの知り合いはいないということですね。

DA：はい。

藤長：公共の子どもを預ける施設は、一時保育も利用しにくいくらい混んでいるということでした。

DA：はい。最近、ネットのキッズラインさんとか、民間の方はけっこう充実しているので、そちらを使っている感じです。

藤長：民間の場合は、料金が比較的にかかりますか。

DA：高いですね。正直、一時保育に預けて講習会をすると費用面ではトントンかマイナスの時もあります。それでも私の仕事が口コミで広がって今後の仕事につながるとか、私自身がずっと教えていないと忘れてしまうので、技術の維持という意味でも、一時保育を利用してでも頼まれた仕事は受けている感じです。ですから今は稼げなくても仕方がないという感じで、けっこう長いスパンで見えています。

藤長：今は、頑張りで将来につなげていく感じですね。

DA：つなげていけたらいいなと思っています。

藤長：先ほど、お子さんがもう少し大きくなってきたら、仕事の比重を増やす予定だとおっしゃっていました。

DA：はい。

藤長：起業されるまでの壁として、子どもさんのことが壁と言うと言い方は悪いのですが、壁にな

って起業に踏み込めないという方もいらっしゃると思いますが…。

DA：私の場合はむしろ、子どもがいたから起業しかなかったと言えます。雇用されて働く場合はパートだとしても、子どもが病気の時など、休めてもいろいろな方に迷惑をかけるでしょうし、それが何回も続けば居づらくなるでしょう。そういうことは、起業の方が少ないのではないかと思います。

藤長：働きたい気持ちは強く持っているということですね。

DA：はい、あります。

藤長：今、子どもさんに合わせて仕事をセーブするとか、子どもを預けて費用がかかるとおうかがいしましたが、反対にお子さんやご家族の存在がプラスになった部分をお願いします。

DA：やはり家族がいるので、ある意味、突っ走らない、家庭が円満というのがあります。

藤長：ストッパーになっている？

DA：はい。

藤長：もし今おひとりでご家族がいなかったら、もっと仕事量を増やしていますか？

DA：おそらくもっと仕事をしているでしょうが、その時はシングルというか、絶対離婚している状態だと思います。ある意味、家庭円満のためのストッパーとして家族や子どもの存在がよく働いていると思います。

藤長：家庭のことも大事にできるし、働きたい気

持ちも実現できるということですね。今後、増やしていきたいという目標があるとのことですが、お子さんがどれくらいの年齢の時に…

DA：そうですね。それは考えていて、小学校1～2年生の間は帰ってくるのが早いと聞きますし、うちは5学年離れているので、下の子の年齢や成長をベースに考えていかないといけないと思います。まだ全然想像がつかないのですが、下が小学校3年くらいで私が常時、家にいなくても何とかなるんですかね？中学生になったら、ある程度手は離れるだろうなと思いますが、小学生の間はどれくらい手がかかるのか…。皆さん、どれくらいなんですかね？

藤長：保育所よりも小学校に入ってからの方が、帰りが早いと聞きます。

DA：そうですね。

藤長：学童がなくなる学年になると、また違うのでしょうか。

DA：学年が進むと塾があるなど送迎などが必要な場合もあり、起業されている方は子どもの成長段階のどこでどの程度仕事をされているのかなということも知りたいですね。私自身は本当に長いスパンで考えてはいるので、下の子が中学校になったら本格的に仕事をするでもいいと思います。私の両親は働いていて、私自身がけっこう寂しい思いをしてきたので、子どもにあまり寂しい思いをさせるのなら、私ที่บ้านにいた方がいいかなと思っています。子育ての考え方は人それぞれですよ。

藤長：ご自身のペースでお仕事をしていくにあたって、たとえば行政や公共の施設で、こういうサポートがあったらいいということはあります

か？

DA：やはり子どもの預け先が一番のネックですね。あるにはあるのですが、なかなか予約が取りづらい。条件があるとか、保育所もフルタイムで働いている方ならともかく、私のように週3程度の仕事量だとなかなか入れるところがありません。今も民間の所に預けていて、なかなか公共の施設が使えていないので、週1とかで起業されている方でも、預けられるような公共の施設があったらいいなと思います。

藤長：通常の保育所だと、雇用されていてフルタイムの方が優先ですね。

DA：そうです。その方でも落ちたなどと聞くので、私は絶対に無理だわと。

藤長：申し込みはされずに民間の方を選ばれたのですか？

DA：そうです。

藤長：もし通常の保育所に入れるなら、そちらの方がいいですか？

DA：そうですね。やはり金銭面や預かってもらえる時間も違うので。

藤長：今はどれくらいの時間で預けておられるのですか？

DA：日によって違いますが、9時くらいから5時半くらいまでです。

藤長：平日のお仕事だったらその間で受けて…

DA：はい。入れる年齢もそんなに早くは入れな

いので、ゼロ歳代はずっと自宅で親が見ないといけないというのがあります。1歳代からだとかこう預かってくれるところが増えるのですが、ゼロ歳代は少なかったり、予約が取りづらかったり、費用が高いことが多いですね。

藤長：4月に出産されたら、しばらくは産休を取りますか？

DA：連れて行けるうちは連れて行きますが、動くようになってきたらアウトだなと。

藤長：出産で仕事に変化はありますか。

DA：あります。妊娠したことで家庭への思いが強くなりました。今からもう1人増えますし、より家庭の比重が増えたというのがあります。

藤長：家庭の比重が増えたということですが、起業していてよかったと感じていますか？

DA：よかったと思っていますし、続けていくつもりです。私にとっては専業主婦として家にいて育児だけというのは絶対にできないので、変な言い方ですがある意味、起業が息抜きであり、生きがいというか、ずっと続けていけたらいいなと思っています。

藤長：起業セミナーのお話が出ましたが、受講したメンバーとのつながりは今もありますか？

DA：はい。やはりすてっぷさんの起業の集まりから発展したお仕事がいろいろあります。皆、同じような意識があるので、紹介してもらったり紹介したり、すごくいい人脈と機会をいただい

ると思います。この起業セミナーがなくなってしまったと聞いて、本当にもう少し続けていただきたかったと思いました。

藤長：受講生 OB だと交流しやすいですか？

DA：はい。やはり豊中でなじみがあるので、皆、結束力が強いというか、全然知らない起業パーティーに行くと浮いてしまうのですが、「すてっぶの起業セミナー出身です」というと皆さん温かくして下さって。

藤長：OB 同士でつながってイベントをされる方もいると聞いています。

DA：お話はあったのですが、妊娠したり体調を崩したりしていたので私は今のところないです。いくつかコラボされている方がいらっしゃるとは聞いています。

藤長：機会があったらされてみたいですか？

DA：そうですね。してみたいです。

藤長：インタビューの最後に、今、起業を考えていて、子どもがいることで迷っている方にアドバイスをお願いします。

DA：「起業」というと、バリバリ働かなければならぬ、あれもこれも自分でやらないといけないし、稼がないといけないというイメージを持っている方がいるとしたら、私は全然稼いでいないけれど、それでも始めてみたらいいんじゃないかなと思います。始めたことがマイナスになることはたぶんなくて、この仕事を 10 年続けたら、今よりキャリアも増えて、できることも増えているはずです。やりたい別のことが見つかるかもしれないし、起業されている他の方など、いろいろな人と

出会って、お話をお聞きすることですごくパワーをもらえます。

ママこそそういう刺激がある方が、人生が潤うんじゃないかなと思います。子どもにもある意味、寛大になれるというか、起業していると忙しくて、子どものことが全然できないことがあるのです。たとえば子どもが部屋を散らかしていても、「私も散らかしているしな、言えないわ」とか。もう好きなだけやれ、みたいに、子どもにけっこう寛大になれます。私の場合は、家に閉じこもって育児に集中していると、(子どもの言動が) ちょっと自分のイメージと違うだけで、怒ってしまいそうなのですが、私もかなりいい加減にやっているから言えないなと思えば、ある意味、おおらかに子育てできるのです。それがいいのか悪いのかわかりませんが。

藤長：起業して働いていることが、ご家族にもいい影響を与えていて、ご自身にもプラスになっているということですね。

DA：そうですね。うちはこれでいいんじゃないかなと、最近は思っています。

よく、家族の同意を得られないという、私のような人もいるとは思いますが、やってみたらいいんじゃないかと思います。

藤長：夫さんは DA さんが起業してお仕事されているのは何となく分かっているということですが、今後理解されていきそうですか？

DA：今後もおそらくしないと思います。全部が全部理解してもらわなくていいかなとか、もちろん応援や協力が得られればそれが一番ですが、協力が得られなくてもできることはたくさんあるし、「うちはしてもらえないんだな」というスタンスでいくもの悪くないと、最近は思っています。そのことがそれほど妨げにはなっていないと

私自身は思っているので、少しでもやってみたい
なという気持ちがあるのなら、まずやってみたら
どうかなと思います。

藤長：「まず家族を説得しないと」というところか
ら始まると思ってしまう人が多いのではないで
しょうか。

DA：そうです。私も最初はそう思っていました。
でも途中で説得はできないと思ったので放棄し
ました。ただ、家族がそれで悲しむのはよくない
ので、そのバランスを見ながらやっています。

藤長：本日はありがとうございました。

DA：ありがとうございました。

2020 年 2 月 10 日 桑野順子さんインタビュー

藤長：本日はよろしくお願いします。

桑野：よろしくお願いします。

藤長：「女性のための起業連続セミナー」を受講されたのが 2 期の 2017 年度なので 2 年経って 3 年目に入られました。年齢をおうかがいしてもいいでしょうか。

桑野：42 歳です。

藤長：ご家族を教えてください。

桑野：夫と、小学 1 年生の娘と、今 1 歳 10 か月の息子です。受講していた時はまだ生まれていませんでした。

藤長：ご両親はいかがでしょう。

桑野：私の実家は愛媛で、夫の実家は岸和田です。

藤長：愛媛だと急に助けに来てもらうのは難しいですね。

桑野：そうですね。岸和田も、事前に頼んでおけば来てもらえる距離ですが、車だと高速で 1 時間、電車だと駅から自宅まで歩く時間も含めて、1 時間半や 2 時間近くかかります。何かの時には来てくれる、という感じです。

藤長：今日はよろしくお願いします。まず起業の内容についておうかがいします。「バースデーランナーとママフォトグラファー」とうかがいましたが、お仕事の場所は自宅ではなく、出かけて行く形でしょうか。

桑野：自宅でのフォトレッスンも開催しています。出張でも撮影したり、店舗での撮影会をしたりしています。

藤長：出張での撮影は場所を借りるのでしょうか。

桑野：撮影はお店などの場所を借りてです。

藤長：撮影会の依頼があって出かけていくのですか？

桑野：依頼というのはなかなかなく、豊中の「親子カフェ」で場所のレンタル（時間貸し）をしたり、ワンドリンクを注文したら 1 時間半、席を使ってよいという形式で撮影会やフォトレッスンで使わせてもらったりしています。自分で企画しないと集客はなかなか難しいです。

藤長：ご自身で企画して募集するんですね。

桑野：そうですね。

藤長：フェイスブックにも撮影会などの案内をよく載せていらっしゃるようです。ご自身でこの日にやろうと計画されるわけですね。

桑野：だいたい、そういうふうにやっています。七五三など出張撮影の場合は、指定の場所に行って撮影します。撮影会としては、自分で企画して募集をかけて行います。

藤長：週に何回とか月に何回くらいですか？

桑野：受講が終わった翌年に出産しました。1 年経って去年、できることをストップするのも嫌なので、何か始めたいと思っていたところ、自宅近くの幼稚園の近くに「親子カフェ」ができ、場所を貸してもらえるということだったので、月 1 回

ペースで撮影会を始めました。続けてもらうことで知ってもらえるし、自分の経験にもなると考えました。月1回ずつの撮影会のほかに、ハロウィンやクリスマスなど、豊中と箕面でベビーマッサージをされている方とコラボでさせていただき、豊中と箕面の両市でそれぞれ開催されるイベントで同じブースを2回開催することもあります。

藤長：なるほど。ご自身の状況に合わせて仕事量も調整されているんですね。出産されて1年後くらいからは、途切れずお仕事を入れている。

桑野：出産直後は撮影会まではしていませんでした。すてっぷでの催しが2回あり、それに出させていただいたのと、知人やその紹介の依頼を受けて出張撮影に行くという形でした。去年1年間は続けてやってみようということで親子カフェでの撮影会を行いました。

藤長：講座で起業計画を立てられた際、どの程度の収益を見込むか計画されたと思いますが、実際にいかがですか？

桑野：そうですね。その計画まではまだたどり着けていないのですが、子どもがいるからストップしてしまうと進まないで、収益というよりは…

藤長：今後に備えて、でしょうか。

桑野：今度に備えて、できることを続けようかなと。やりたいのにできないと思うのも嫌なので。

藤長：起業までの流れについてですが、前回のインタビューでお聞きしたところでは、はじめのお仕事は正社員として入社されて、結婚後、退社されたのですね？

桑野：はい。結婚で夫の転勤があったので退社し

て、その後は派遣社員としていろいろな会社で働いていました。

藤長：今度は上のお子さんの出産の時に、お仕事を辞められたということですね。

桑野：はい。

藤長：今回、新しく何かを始めるにあたって、たとえば以前のように正社員や派遣など、「雇われて働く」のではなく「起業」という形を選ばれた理由は何だったのでしょうか？

桑野：結婚したのは15年くらい前です。夫とは同じ会社だったのですが、夫が転勤した時に妻も同じ転勤先に異動させてくれるという制度がなかったのです（現在は制度がある）。それで辞めざるを得ず、派遣社員になりました。第一子出産後にパートとして働こうかとも思ったのですが、パートでは保育園の保育料の負担が強く感じられます。

藤長：働いた分が出てしまう。

桑野：そうです。働いた分を丸ごと持って行かれるくらいです。夫の会社は定時では帰宅できず、帰りが遅いこともあり、小さい子どもがいる時に、パートで働くという選択肢はまずありませんでした。フォトレッスンを始めたのも、仕事をしたかったとか収入を得たかったからというより、フォトグラファー養成講座の先生のように、自宅での教室という形であれば、子どもがいても融通がきくし、何か好きなことを教室程度で始めていきたいと思ったのがきっかけです。

藤長：以前から写真に関心があったのですか？

桑野：子どもが生まれた時にカメラを買ったので

すが全然、使えなくて…。1歳半くらいの時、たまたま私が習っていた先生がテレビ番組に出演されており、子ども連れで行けるカメラの教室があると知りました。住所も近かったので、これなら通えると思って行ったのです。

藤長：そこで働き方のヒントを得た。

桑野：一緒に習った友達で、今、スタジオに勤務されている方もおられるのですが、サービス業では土日に出勤してほしいと言われますし、夫は土日が休みなので休みが合わなくなります。また、子どもがまだ小さいのでシフトなどで遅くなることを考えると、自宅で自分ができるペースで進めるフリーの出張フォトグラファーの方がいいのかなと。

藤長：お家のことやお子さんのことも両立しながらできることを、ということですか？

桑野：そうです。

藤長：起業の際は、当時のお子さんの状況（5歳と今から生まれる）に合わせて、計画を立てたのでしょうか。

桑野：はい。子どもが幼稚園に行っている間は仕事できるけれど、帰宅するとできないので、平日の日中にできる内容であること、また2人目の子どももこれから生まれるし、一時保育がまだ利用できなかったのも、子どもを連れて行ける場所で、連れて行っても大丈夫な内容をと考えました。親子カフェのフォトレッスンは一緒に連れて行って遊べるし、自宅でレッスンすることもあるのですが、相手もお子さん連れで、うちにも子どもがいて、みたいな感じです。週末のイベントの時は、夫と留守番してくれます。子どもの性格にもより、上の子は無理だったのですが、この子はパパでも

平気なので、それなら自宅でなく外に仕事に行っても大丈夫、みたいな。

藤長：夫さんの方も「見るよ」と協力的ですか？

桑野：そうですね。たぶん、最初は何を始めたんだろうと思っていたようです。定期的に親子カフェでの撮影会を続けたり、すてっぷのイベントに参加して何かしたりしているのを見て、理解してくれたというか、「ああ、やってんねんや」と。

藤長：説明しなくても、何となくこういうことをしているんだろうなという感じで？

桑野：そうですね。最初は趣味の延長で、カメラ仲間の女性たちとマルシェに出るなどしていると思っていたのですが、定期的に撮影に行ったり、いろいろな準備をしたりして、少なくとも対価を得ているのを見て…

藤長：それもお覧にはなっているんですね？

桑野：そうです。何か仕事としてというか…

藤長：趣味ではなくなっている。

桑野：もうちょっと趣味の域を超えた何かをやっているのは分かっていると思います。去年はたまたまご縁があって、企業さんとのコラボ的な活動をする機会もありました。フライングタイガーさんが、同社の製品を好きな人が、季節ごとのアイテムを使って装飾したものをインスタで紹介し合う、フライングタイガーファンのコミュニティの会員を募集しており、お客さんを無料招待するイベントで誘われたので、もともとそういうパーティー装飾が好きだったこともあり、会員登録しました。そのコミュニティで、フライングタイガーと会員と一緒に楽しめる「部活」(オフ会)の「部

長」を募集していたので、応募したところ、選んでいただいて、去年1年間、「部長」をしていたのです。フライングタイガーの商品を使ってディスプレイすることで、対価は発生しませんが商品いただきました。また、謝礼と材料費をいただいて、同社の店舗で子ども向けのワークショップを開くこともありました。世の中に知られた企業で「部長」として活動している様子を見て、夫もただの趣味が、少しずつですが、ちゃんとした企業と何かするところまで来たというのは分かってくれています。好きでやっているなら、自分の時間が合えば協力してくれる、みたいな感じです。

藤長：現実的に大きい企業と関わっているのを見ると伝わりやすいですか。

桑野：ちゃんとやっていると思ってくれているのかな？この間も、企業の装飾に行くのに、平日の夜で子どもを連れて行けないので、「仕事が早く終われる？」と聞いたら、「その日は調整がつくからいいよ」と言ってくれて、梅田で子どもを引き渡して1人で出かけました。

藤長：当初の予定から考えると、平日の夜というのはイレギュラーな形ですね。

桑野：そうそう。そういう時も相談すれば、別に文句を言うわけでもなく、仕事の調整がつきそうならつけてくれるので、少しずつ理解してくれているのかなと。

藤長：では準備の段階では特に何も伝えてはいませんか？

桑野：そうです。特に何も言うてはいません。店舗を構えるなど、最初に資金が要るわけではなく、高いレンズなど機材の投資は要りますが、それはもともと自分が好きで買っていたものです。

「起業するから最初に100万円」というわけではなく、おけいこの先生をするみたいな感じで見ていたのだと思います。

藤長：それが少しずつ規模が大きくなってきた。

桑野：そうですね。それほど大きくはなっていないのですが。

藤長：起業する時に、子どもがいるからしばらくやめておこうとか、大きくなってからにしようという人が多いのですが、準備段階を含めて、子どもさんがいるということで、やめようかと思ったりしたことはなかったですか？

桑野：なかったですね。写真の撮影会やキッズパーティーというのは、娘が生まれてから発生した業界であり、子育てが落ち着いてからではなく、子育てしながらできる内容だったのだと思います。2人目の子は歳も上の子と離れているし、私は出産が遅かったのも、落ち着いてからとなると、年齢的に遅くなってしまうので、今、始めた方がいいし、できることなら続けたいなど。

藤長：お仕事自体はしたかったのでしょうか。

桑野：最初は特に仕事で何かしたいという気持ちはなくて、好きなことを仕事にできるならいいな、という感じです。仕事として対価をもらうようになり、スキルの向上についても勉強するようになり、きちんと仕事として収益も出すようになりたいと思うようになりました。

藤長：実際に起業されて困ったことや、こういう準備が必要だったということはありませんか？

桑野：フォトグラファーも装飾も、替えがきかない仕事を1人でやっていますので、自分自身の体

調もですが、子どもが体調不良になった時のことを考えると不安でした。去年、定期的に撮影会をすると決めた第1回のしょっぱなに、息子が水ぼうそうにかかってしまいました。確実に移るので連れて行けないし、一時預かりもできる年ではなく、認可外で預けられるところもありましたが、水ぼうそうでは預けられないし、連れても行けない、どうしようと思いました。結局、岸和田から夫の両親が来てくれたのですが、そんなばりばり働いているわけでもないのに、「こんな小さい病気の子を置いて何しに行くのか」と言われるだろうと思いました。

藤長：起業されていることは伝えていなかったのですね。

桑野：まだ「起業」というほどでもないし、頼みづらかったのですが、優しい両親なので、「イベントをしようと思っていたら体調不良になってしまったので」と頼むと出てきてくれました。この子も人見知りしないので見てもらえたのですが。去年の12月にも、私とこの子がインフルエンザにかかってしまって…。やはり替えがきかないという点で、子どもの体調不良ですかね。

藤長：お子さんの時はそうして急遽、預かってもらえたけれども、ご自身の時は中止するしかないですね。

桑野：体調が悪い時はその合間をぬってなんとか行けましたが、小さい子どもがいながら、自分も体調管理することの難しさがあります。子どもがもらってくる病気を自分ももらいやすいので、怖いなと思います。

藤長：水ぼうそうやインフルエンザだと病児保育も難しいですね。

桑野：そうなんです。

藤長：預けられる場合は預けますか？

桑野：そうですね。動くようになってからは、フォトレッスンなら一緒に行きますが、撮影会となると一時保育に預けられるので預けて行っています。

藤長：ふだんは保育所ではない。

桑野：預けていません。保育所も保育料が高いので…

藤長：預けるとすると民間の保育所ですか？

桑野：公立でも民間でも、今の働き方だとがつつり稼いでいるわけではないので保育料の問題もあって、仕事が入った時に一時預かりにお願いする感じです。

藤長：一預かりはすんなり預かってもらえるのですか？

桑野：今、お世話になっているところは大丈夫です。

藤長：上の子どもさんが小学校ということは、割と早く帰ってきますよね。

桑野：そうなんです。3時すぎに帰ってくるので、それまでに終わるようにしています。どうしても用事があって無理な時は、お友達の家と一緒に帰ってもらっています。豊中というのは、学童保育に預けるにも就労証明書を提出しなければならないですし。

藤長：可能であれば学童に預けたいですか？

桑野：いや、今、小学生はとても忙しいから、一緒にいられる時はいたいと思うので、予定がない時は必要ないのです。

藤長：お仕事が入った時にあればいいと？

桑野：ただ、横浜や川崎など、他の自治体では単発で預けられると聞いています。おやつ代を持って行けば、特に働いていなくても預けられるそうです。そのような制度が豊中にはないので。

藤長：それは大きいですね。

桑野：やはりその制度は欲しいと思います。

藤長：お仕事の後押しで、公共（行政）のサポートがあればいいと思うのは、やはり学童の部分ですか？

桑野：今の学童は、がつつり働いている人でないと預けられず、ハードルが高いので、何か始めた時に預けられません。働くだけでなく、勉強会に行きたくても時間が取れないのです。その制度があれば助かります。

藤長：3 時までにはすべて済ませてと思うとなかなか難しいですね。困りごととしては、病気になった時や預けられる場所がないことをお聞きしましたが、起業というか仕事をするにあたって、逆に家族やお子さんの存在がプラスになったと感じることはありますか？

桑野：私のしていること自体が、子どもがいるからこそそのものです。子どもの写真を撮りたいとか、家族のイベントや記念日を大切にしたいという思いから始まる仕事ですから、子どもありきなのです。やはり家族があるからこそその仕事だと思っ

ています。

藤長：お子さんはモデルもされているんですね？

桑野：そうです。仕事でいろいろ撮りたいというベースとして、自分の家族を、思い出に残る写真に撮って記録したいという思いがあります。そういった写真を残すことは、子どもが思い返してもいいことだと思っています。この仕事は自宅で楽しめるし、今は娘にどんな写真や装飾がいいかと聞けますしね。

藤長：お母さんのお仕事を近くで見ているから、娘さんも応援してくれている感じですか？

桑野：はい。「今日、お仕事で写真撮りに行く」と言うと、やはり女の子なので、自分も撮影に必要な装飾品を作りたいとか、一緒に行きたい、一緒にやりたいと言ってくれます。

藤長：いずれ親子で行かれる時が来るかもしれませんね。

桑野：たまに週末の撮影や外の撮影について来る時があるのですが、ちゃんとアシスタントとして赤ちゃんの相手をしてくれます。

藤長：そうすると、撮りに来てもらっている人も、自分の子どもが大きくなった時にこんな感じになるのかなと思われるでしょうね。

桑野：そうですね。娘が同行することでちょっとほっこりしてもらえるかなと。写真撮影だけでなく、子育てもほっこり楽しんでもらえたらいいなと思っています。

藤長：1 歳 10 か月の息子さんと小学 1 年生の娘さんに合わせて、起業の計画を立ててこられたと

思うのですが、今後の展開として、たとえばもっと広げていきたいとか、このままいきたいとか、何か考えていることはありますか？

桑野：一時預かりに行けるようになったので少し広げていきたいとは思っているのですが、この子が4月生まれなので、幼稚園に行けるのはまだまだ先なのです。プラス1年みたいな感じであと2年あるので、一時預かりを定期的に週2〜3回利用しようかなと思っています。そこのバランスでしようかね。仕事はしたいですが、家にいると触ると危ないのでパソコンは広げられないし、でもこれをしておかないと、という時に、家にいても子どもにかまうわけではなく、1人で遊ばせていて横で仕事をしているのもメリハリがないのです。自宅で起業しているから、家に子どもがいてもできないわけではないのですが、時間の管理もしっかりしないと、どっちつかずになってしまう時間がすごく嫌なのです。そこをはっきりさせながら仕事を広げたいとは思っています。保育園に毎日がつっすり行くと費用の問題もあるので、週2〜3回、一時預かりを利用していこうと思っています。

藤長：2年くらい経って幼稚園に行き出したら、また違ってくるのでしょうか。

桑野：そうですね。今は働いているお母さんがすごく多いと思いますが、私の母親は専業主婦で、自分自身がそういう環境で育っていないのです。働きたいけれど子どもも家でも見たいと思っているのですが、そのバランスがなかなか難しいです。

藤長：今は迷われながらやっている部分はありますか？

桑野：家にいても私が遊んでやるわけでもなく、

横で仕事をしているくらいなら、預けてしっかり関与してもらう方がいいのかなという気もしますし…。でもあつという間に大きくなるから、あと1〜2年は半分くらいは子どもと一緒にいたいと思ったりもしますし。家での育児と仕事のバランスを自分で決められるのも起業の大きなメリットだと思っています。

藤長：最後に、子育てしながら起業を考えている人に何か一言アドバイスをお願いします。

桑野：私もそうでしたが、何か興味があるなら、できることから始めてみたら、そこから広がるのではないかと思います。私は引っ越してきて3年目なのですが、このセミナーを通じて豊中の他の起業したい方たちと会えたことによって、豊中で何かやりたい人の情報も少しずつ入ってくるようになりました。去年、撮影会を続けたり、フライングタイガーの「部長」になったりしたことで、今回も紹介してもらって企業さんでディスプレイさせてもらう機会があるなど、少しずつ広がっています。何か始めてみて、直観というか、この人とやってみたいと思ってやっていると、1年経ってすごく広がったなど。

藤長：起業セミナーの同期のメンバーや、はじめに入っていた人たちとは業種（起業内容）が違おうと思うのですが、そういう人たちとつながりがあった方がいいですか？

桑野：はじめてこちらに来た時に、何かやってみたくてもやれる場所がどこにあるのかも知りませんでした。マルシェやデパートの催事などにハンドメイドさんなどもよく出ておられるけれど、どうしたらそこに出られるのかも分からなかったし、そもそもそういう催しに参加するための団体に入るということも、どこにそのような団体があるのかも知らなかったのです。起業セミナーに

参加するまで、マルシェに出ている人たちの交流
会って何なんだろうと不思議に思っていたので
す。私はそういうところに、「え、ちょっと参加し
にくい」と思うタイプで、ビジネスマナーの講習
会などもそうですが、全然知らない人がやってい
ることに足を踏み入れられないのです。「この人、
ほんまなんか、どうなんか」と思ってしまうので
すが、この1期、2期、3期生の中でそういうと
ころに行ったことのある人がいたり、実際に知っ
ている人がお茶会をやっていたりして、知らない
会合に参加することへのハードルが下がりました。
起業している人はこういうふうにしてやって
いるんだという最初のきっかけが分かったので、
私としてはすごくありがたかったですし、やはり
1人でやるよりも、こうした会合などにちょっと
出かけたことはよかったと思っています。

藤長：動き始めてからご家族の理解も出てきたと
いうことでしたね。やはり興味があってやりたい
ことをできることから始める中で、その中でお子
さんの預け先などの工夫も生まれてきたと。

桑野：誰かと知り合うことはとてもプラスになり
ます。1人でやるよりも、そういった集まりに出
かけることで、いろいろな情報も得られるし、新
たな視線も広がると思います。

藤長：本日はありがとうございました。

桑野：ありがとうございました。

藤長：本日はよろしくお願いします。

黒田：よろしくお願いします。

藤長：まず、黒田さんご自身とご家族のことをおうかがいしたいのですが、セミナーを受講されたのが 2016 年の第 1 期で、丸 3 年経ちます。年齢をおうかがいしてもいいですか？

黒田：はい。今、ちょうど 40 歳です。

藤長：ご家族は夫さんとお子さんお 2 人で。

黒田：そうです。

藤長：以前（2017 年）、インタビューさせていだいた時は 4 歳と 1 歳ということでしたが…

黒田：今は 7 歳と 4 歳になりました。

藤長：上のお子さんはもう小学生ですね。下のお子さんは…

黒田：年少です。

藤長：保育所ですか？

黒田：今年は幼稚園に行っています。保育園と同じくらいの時間まで、幼稚園で預かってもらえるので、それでやっています。

藤長：ご両親は…

黒田：うちは母 1 人で育ってきているので、母 1 人です。

藤長：お近くにいらっしゃるのですか？

黒田：庄内です。結婚する時の条件として、絶対近くでないと、共働きは無理だと思ったので…。

藤長：夫さんのご両親は…

黒田：両方とも健在で、京都の方です。

藤長：少し遠方ですね。

黒田：こちらは介護も抱えておられるので、基本的にあまり頼らないようにしています。

藤長：さっそく、起業の内容をおうかがいしたいのですが、フットケアをされているとうかがっています。

黒田：はい。メインはドイツ式のフットケアをしていて、あとはシューフィッターとしての仕事です。

藤長：以前のインタビューでは、2017 年 4 月に開業届を出されて、お店を借りて出店することを決めたということでしたが…

黒田：去年 1 月に自分のサロンをオープンし、ちょうど 1 年経ちました。

藤長：ご自宅以外を借りてですか？

黒田：そうです。自宅ではいろいろ制限があるので、マンションの一室を借りています。

藤長：最初は自宅でされていたのですか？

黒田：そうです。自宅と出張でした。

藤長：やはり自宅だと、やりにくい部分がありましたか？

黒田：ありました。マンションなので、もともと内規的には営業はできないということと、駅から離れているので、足の悪いお客様に来ていただくことを考えると、やはり駅近でないとなかなかたのです。いつでも来ていただける拠点という意味でも、自宅とは別の場所があった方が、業務がやりやすいということもあります。車椅子の方にも来ていただけるということが条件として外せなかったなので、バリアフリー物件を探しました。

藤長：条件を付けて探されたのですね。

黒田：絶対に生まれ育った地元でということと、「足の神様」である服部天神のできるだけ近くでと思って。

藤長：定期的に開かれているのですか？

黒田：完全予約制で、予約がある時のみそちらに行きます。出張のお仕事もあるので。

藤長：どれくらい予約を入れるかは、ご自身で調整されているのですか？

黒田：日曜日はできるだけ入れないようにしています。あとは子ども優先で考えているので、子どもが学童から帰宅する5時までに帰るようにしています。

藤長：予約はよく入りますか？

黒田：まだまだですね。本当はもっと入れないのだめなんですけど、ありがたいことに、どうしても外に出る仕事のお話があって、そうすると当日が不在になるだけでなく、準備や片付けなどもいろ

いろ必要でサロンに対応できません。もっとこっちに注力したいので、今年はバランスを変えていきたいと思っています。

藤長：外に出る仕事というのは、何か依頼があるのでしょうか。

黒田：そうです。子育て支援センターで身長・体重を計る時に、私が足を計ってアドバイスするか、子どもやシニア向けに、足の大切さや靴の選び方などの講座を開催しています。この間は高校のスポーツ科で特別授業をさせていただきました。イベントで啓蒙や興味をもってもらうために子どもの足のスタンプをすることもあります。

藤長：そのような場合は、どこかで黒田さんの存在を探されて、向こうから声がかかるのですか？

黒田：もともとは、知り合いが関わっているところからの依頼ですね。毎月、池田の子育て支援センターに行くのですが、池田市からセンターの運営を委託されているNPOの理事が知り合いで、私が「こんなことをやってみたい」と言っていたら、「うちでやって」ということになりました。また、そこから何件か紹介をいただいて、いくつかの保育園などにも行っています。

藤長：知り合いから始まって口コミで…ということでしょうか。

黒田：そうですね。私はまだ特にチラシなども作っておらず、宣伝をどんどんしている状態ではないので、本当の紹介です。

藤長：サロンの方もあまり宣伝はされていないのですか？

黒田：そうなんです。一応、HPは作ったものの、

無料サイトで作成したものですし、私も技術がないので、検索サイトの上の方に上がってくるための対応などもしていなくて、名刺代わりというところですよ。直接、会える方には名刺があるけれども、それができない方だと思って作っている紹介サイトです。

藤長：ではお店の名前で調べたら出てくるというような…

黒田：そうです。HPと、あとフェイスブックのページくらいしか作っていません。

藤長：セミナーを受講された時に、事業計画で収益の目標を立てられたと思いますが、今のところはどうか？

黒田：今年はサロンを持ったことで固定費が一気に来たので、月々の支払いが生じました。今、最終計算をしている時期ですが、正直、今年は仕事とは呼べないくらいでした。

藤長：まだ目標には達していない感じですか？

黒田：そうですね。

藤長：サロンを構えながら出張もされて、幅広くお仕事をされているんですね。その続きで、起業までの流れをおうかがいしたいのですが、最初にお仕事をされた時は、正社員など雇われる形でしたか？

黒田：そうです。大学を卒業後、まずOLとして働いていました。本当は、私は総合職をしたかったのですが、1年目に「うちは今まで女性で総合職をしてもらったことはない」と言われてしまい、「そうなんや…」となって、そこで今まで人生の中で、ちょっと引っかかっていた後悔の部分であ

る、野球トレーナーの学校に行ったのです。というのは、大学で野球部のマネージャーをしていたのですが、その時に体を痛めている選手を見ても、何もできなかったという後悔がありました。仕事にやりがいが見つけられなくなったので、働きながら夜間のトレーナーの学校に通って勉強しようと思ったのです。その学校の校長は女性で、アメリカのメジャーリーグの選手にもついている方でした。夜は学校に通う生活で、秋に卒業を控えていたのですが、春になって「うちの会社ではじめて、近藤さん（旧姓）を総合職に採用しようと思う」と言われたのです。「今！？」という感じでした。やりかけたことを辞めるのも嫌で、すごく悩んだのですが、結局、トレーナーの方を取ったのです。トレーナーの学校を卒業して整骨院を紹介され、その時はアルバイトとして整骨院で働きながら、足の大切さを学びました。そこでドイツ式フットケアに興味を持って、自分で店を持ちたいと考え、2005年にドイツ式フットケアの学校に行ったのです。開業までに準備期間が半年くらい要ると思って、半年限定という気持ちで靴屋さんにアルバイトで入ったのです。

藤長：より足のことを知るために？

黒田：はい。やはりどうせつなぎでバイトをするなら、経験も積めるし近いところがいいと思い、スポーツメーカーの靴売り場に配属になりました。半年のつもりだったのですが、そこに10年いてしまったのです。

藤長：かなり長くいらっしゃったんですね。

黒田：上司がとても尊敬できる人だったということと、ちょうど職場も足に力を入れようとしていたのですが、女性社員でも足のことをしようとする人が全然いなかったのです。それでアルバイトの私が抜擢されて、ありがたいことに資格も取ら

せてもらい、契約社員にしてもらい、店を任されたりもして10年…

藤長：会社側と黒田さんのニーズがマッチしたということでしょうか。

黒田：そうなんです。その期間はバイトから契約社員で働いていました。辞めることを考えたのは、2人目の子どもの出産を考えた時です。

藤長：じゃあお1人目の時は…

黒田：産休・育休も取りました。実際に復帰してみると、接客業ですので日曜や祝日も出勤があります。だんだんポジションが上がっていくにつれて休みにくくなっていきました。実際にそういう業界というのは、今まで産休・育休後も働いている人がすごく少ないところでした。けっこうしんどくなってきた時に、ちょうど新店舗の店長をしてみないかという話が来ました。すごくありがたかったのですが、どちらかを選ばないといけないというタイミングになって、やはり2人目を考えた時に、この仕事は続けられないと感じたので、もう辞めますと。2005年に入って2015年に辞めたので、ちょうど10年でした。

藤長：もし日・祝が休みやすくて、5時までで大丈夫だったら、続けていたかもしれないですか？

黒田：続けていたかもしれません。でも悩んだ時に、「私はずっと何をしたかったのか」と考え、あの時は「お店をしよう」と思っていたよなと。これはそうしろという後押しだなと、思うようにしたのです。それで思い切って、起業の方に切り替えられたというの也有ります。

藤長：きっかけになった。

黒田：そうですね。正直、そうせざるを得なかった状況もあります。うちは主人が高校の教員で部活の指導もしていて、年中、まったく家にいないタイプの人なので、私が動けないとだめなのです。保育園から迎えに来てほしいなどの電話がかかってきても、「俺は無理やで」というタイプだったので、私が動ける状況を作るとか、2人目を考えるとなった時に、もう会社で働くことは選べなかったというの也有ります。でもそれを後押しだと思って、そっちに進みました。

藤長：辞められて、お2人目を出産されたのですね？

黒田：そうです。

藤長：その後にすてっぶの「女性の起業連続セミナー」に来ていただいた。

黒田：そうです。15年に出産しているので。

藤長：セミナーについていた一時保保育は利用しましたか？

黒田：途中からはそうですかね。たぶんはじめての方は1歳になっていなかったのて。

藤長：一時保育は1歳からですね。それでも来て下さったんですね。

黒田：せっかく今は産休というか、休憩期間となったので、これは行けるタイミングだなと思って。連続講座でしたし、また何か始めてしまうと、なかなか行けなくなるので、これはもう行くしかないだろうと思って。

藤長：セミナーを受けながら開業の準備をされたということですが、それまでにも、ある程度の準

備は進めていたのですか？

黒田：辞めてから調べ出して、チャレンジセンターに少し行きました。だいぶんおながが大きい頃に事業計画書のセミナーがあって、与那嶺さんにお世話になりました。

藤長：妊娠中から計画を進めていたんですね。

黒田：そうですね。何か動いていないと保育園も入園許可が出ないですしね。

藤長：起業するとなったら保育所は…

黒田：準備期間として多少は行けるのですが、何年もというわけにはいかないですね。あと、技術の復習のために学校に通っていたこともあって、保育園にお世話になりました。

藤長：お子さんを預けられないと、準備を進めるのも難しいですね。

黒田：はい。

藤長：そうして起業に向けて進めてきていて、何か困ったこととか、壁だと感じたことはありましたか？

黒田：私の周りに「起業」という働き方をしている人がいなくて、「起業って何」という状態で、何をしたらいいか分からないのが一番困りました。誰に何をどう相談したらいいのかすら分からなかったのが、こちらの起業セミナーが、まさにいいタイミングで、いい場所だったのです。

藤長：チャレンジセンターやすてっぷの講座は、ご自身で調べてこんな講座があると知られたのですか？

黒田：そうです。

藤長：チャレンジセンターや起業セミナーに通われたことで、起業への不安などは解消しましたか？

黒田：やはり講師の方には言っていただくことから進めていくことで、だんだん分かってきましたね。ここに来ていた時も、フェイスブックのページやHPを作るように教えてもらい、それをきっかけに作りました。

藤長：準備を進められているところでタイミングがよかったのですね。夫さんは学校の先生をされていて、とても忙しいということでしたが、この準備の段階で、起業したいというお話はされましたか？

黒田：もともと休みの日にフットケアをしていましたし、独身時代にも、私は1人暮らしをしていたのですが、1部屋をケアルームにして、知り合いを呼んでやっていたので、知っていました。

藤長：いつかはサロンを持って開業するだろうなと…

黒田：思っていたんじゃないでしょうか。

藤長：特に改めて説明をされたわけではないのですか？

黒田：特には。好きにしたら？という感じでした。

藤長：準備の時はご自身で進められて、協力してもらうことはなかったのですか？

黒田：はい、まったく。いい意味でも悪い意味で

もノータッチで、そこは勝手にさせてもらいました。

藤長：信じて…

黒田：いい言葉を言われますね。夫は私が起業することに無関心だったのかどうか分かりませんが、起業の準備は自分でしましたね。そのための貯金もしていたので、やりやすかったです。それがなくて、夫のお給料を使わせてもらおうとなったら、すごく引け目があったと思うんですけど。

藤長：起業に向けて、ご自身で資金を準備されていたんですね。

黒田：独身時代からそう思っていましたので、基本的に必要なものは揃っていましたし、精神的には進めやすかったですね。女性が起業する場合、旦那さんへの遠慮とか依存という点が、皆さんが悩まれるところだと思うのですが、そこは違いましたね。

藤長：お聞きしていて、早くから準備されていたというのが、効果的だったのかなと思いました。

黒田：そうですね。

藤長：もともと早い時期からサロンを持ちたいという気持ちも、働き続けたいという気持ちもおありでしたか？

黒田：そうなんです。私は専業主婦というのは考えられないタイプです。やはり子どもも、私が違う世界を持っている方がいいと思いますし、何かあれば外に出ていたいと思っていましたね。

藤長：そうして準備を進めていかれた当時、お子さんが4歳と1歳だったということなのですが、

お子さんの状況に合わせて計画を立てていった部分はありますか？

黒田：あります。やはり生活の中で子どもが優先ということは決めていました。

藤長：先ほどの、仕事は5時までとか、日祝は入れないとか？

黒田：そうですね。正直、したいことがあってこっちにがつつり注力したい、でも目の前に子どもがいるのでできないという、もどかしい時もありましたが、「迷ったら子ども優先」と自分に決めていました。子どもが通っていた保育園が合わなくて、「幼稚園に行きたい」と言い出したことがあったのですが、幼稚園の場合は、行事などで仕事を休まなければならないことが増えることもあって迷いました。でもその時も、子どもが行きたいと言うのなら、そのバランスで行こうと考えました。そうでなかったら、私は仕事仕事になってしまいそうだったので、ちょうどよかったと思います。子どもと関われるのも今しかないですし、今は子どもとの関わりを優先しながらやっています。

藤長：もしお子さんがいなくてサロンをお持ちだったら、もっとされていた感じですか？

黒田：はい。そうなりますね。

藤長：予約も入るだけ入れたいくらいの？

黒田：そうかもしれないですね。今となってはちょっと想像が付きませんが。

藤長：そうですね。お子さんがいらっしゃるのを前提で進めてこられたわけですから。

黒田：やはり子どもがいることで、今の子どもたちの様子を知ることができましたし、子どもの足について教科書で学んではきたけれど、子どもの理想と現実、足と靴との事情が教科書の記述とは全然違うことも感じました。お母さんを相手にお話しする機会も多いのですが、現在の日本で子育てすることの難しさや悩みも分かるので、「一緒にやっていこうね、お手伝いするよ」というスタンスで、同じ立場に立つことができます。こういうことは、子どもがいるからこそ、今の私にできているわけで、以前は想像できませんでした。

藤長：話を聞きに来たお母さんも、同じ立場だと思うと、やはり安心感が違うでしょうね。

黒田：本当に子育て事情って3年もあれば変わりますから、育児グッズも全然違ってきます。たぶん、教科書で習っていただけでは話がずれていたと思います。今、育てているからこそ話ができるなあと。

藤長：実生活では難しい提案をしてしまうとか？

黒田：はい。足と靴の理想だけでなく、工夫や妥協点を提案することもあります。

藤長：準備期間も長く計画的にされて、2017年の講座を受け終わった直後くらいに、開業届を出されたということですね。

黒田：開業するほどの収入は正直、ありません。その時点でも、たぶん今も、まだ出さなくてもいいんじゃないかというレベルなんですけど、人の体を触る仕事なので、フットケアの保険に入っておきたいのです。そのためには、実際にやっている証拠として確定申告の書類を出さないといけないのです。それでこのタイミングで出したのです。

藤長：まずご自宅と出張でということ。

黒田：そうです。

藤長：ご自宅でされていた時に、いろいろなことを準備していてプラスに働いたこととか、逆に実際に働いてみて困ったこととかありましたか？

黒田：自宅でできることとなると限られてきて、宣伝もできないし、たとえば玄関が来客と家族で一緒なわけですから、気を遣うことはありました。思うように集中はできなかったですね。出張の場合は、大量の荷物を移動させなければならないです。今はサロンを開いて、そこにどんと置いておけるし、そこに来ていただけるので、ずいぶん違いますね。

藤長：サロン形式にしてからの方が、準備もきれいに整った状態でできるし…

黒田：だいぶん違いますね。

藤長：維持は大変だけれど、サロンがあった方がよかったということでしょうか。

黒田：そこはすごく悩ましいところだと思います。子育てしながらするには、固定費がかからない方が賢いんです。全然違いますからね。でも私がやりたいことって何だろうと思った時に、やはり譲れない部分がありました。常に優先順位を考えて動くようにしているのですが、家では車椅子の方や足の悪い方に来てもらうのは無理で、やりたいことができなかったのです。それならサロンを持つしかなかった。基本はシンプルに優先順位を考えながら、後悔のないようにと考えて動いています。

藤長：起業準備の段階で特にご家族の協力はあお

がなかったということですが、今も同じですか？
基本は自分でお子さんのことやお家のことをされて…

黒田：子どものサポートだけは、母にお願いすることはあります。

藤長：お母様も協力的ですか？

黒田：そうです。

藤長：お子さんを見てもらうことが中心でしょうか。

黒田：そうですね。そういうことが多いです。

藤長：ご家族以外にサポートしてもらえる人はいいますか？

黒田：あります。すてっぷの起業セミナーの同期の人、ここは今でも本当にありがたいことにつながっていて、皆の活動を見ているだけでも、私のモチベーションの維持や向上にもつながりますし、相談もできる仲間です。起業セミナーが終わった直後に、地域創生塾にも通ったのですが、そちらでも地域密着でやりたいという思いを実現するために、相談に乗ってもらったり協力してもらったりしました。

藤長：上のお子さんは保育所から幼稚園に変わられて、今、小学校ということですが、預けられる時間の制限とか病気の時など、お困りになったことはありましたか？

黒田：ありました。特に保育園に行っている時は、母も使いましたけれど、それでも難しくて、朝早くから病児保育に走ったこともありました。でもそれは、物理的に何とかなっても、すごく精神的

に自己嫌悪に陥ったというか、病気の子を預けて仕事していることへの罪悪感というのはありましたね。

藤長：でも何とか預けて…

黒田：どうしても代わってもらえない、1人でやるのはそこが大きいのです。

藤長：代わりがない。

黒田：そうです。企業で働いていれば何とかなることも、1人では何ともならないことが多くあります。出張に関してもサロンに関しても1人なので、そうせざるを得ないことは出てきましたね。

藤長：学童も使われているのですか？

黒田：はい。今、行っています。

藤長：小学校に入った時に学童を利用できずに、仕事の時間を短縮しないといけないというお悩みを聞いたことがあります。

黒田：びっくりするほど帰ってくるのが早いので。

藤長：保育所の方が長いんですね。

黒田：そうなんですよ。うちの場合は、4月1日から学童に行けたので、試しに行かせてみたら、合ったみたいですごく楽しんできて、そこは本当にスムーズでしたね。学童は5時までか7時までかの2種類の枠があるのですが、そこも5時までにして、その中で働くというスタイルに決めました。7時まで行けるとなったら、絶対にずるずるになってしまうんですよ。起業して自営するというのは、好きなリズムで仕事できますから、「今月は3日だけ」と決めることもできますが、逆に

言うと、常に仕事になってしまうのです。夜でも携帯に連絡が来るともよくありますし、返事をする人は自分しかいない。私生活での知人からの紹介で仕事に来ることもあり、ふだんの生活が仕事につながってしまうので、会社に行っている時よりも、仕事と私生活の線引きが難しいのです。ですから、自分の中ではっきり決めておかないと、ずるずる仕事の比重が増えてしんどくなってしまいうですね。そこで、子どもが5時に学童から帰ってくる時間に合わせる、それまでに下の子も迎えに行っておくという線引きをしました。結局、今は仕事自体は4時までしかしていません。そこから迎えに行って、帰って、そこから食事の用意をして、みたいな感じです。

藤長：もうそれで今の生活のリズムができていると？

黒田：そう決めています。

藤長：そうですね。仕事量をご自身で決められるからいくらでも増やせてしまえる、という部分があるということですね。

黒田：これという決まりを持っていないと、ずるずるどちらにも行ってしまうのです。

藤長：たとえば「どうしても日曜日にしか行けないんですが難しいですか」と問い合わせがあるケースでしょうか。

黒田：そうなんです。でも基本のスタンスは子ども、その上で母が子どもの面倒を見てほしい時は言ってきたらいいよと言ってくれているので、これはどうしようもないかなと思ったら母に相談する、というくらいにしています。

藤長：先ほど言われた、優先順位をきちんと決め

ておいて…

黒田：それをよく考えます。

藤長：そして後悔のないようにという部分が、お子さんのことに関しても同じ形でということですね。

黒田：そうですね。

藤長：今の仕事とお子さんのバランスはちょうどいいですか？

黒田：いいようにしています。しているつもりですが、これが人から見たらどうなのか…すごくぐちゃぐちゃな生活なので。

藤長：お気持ち的にはすごく忙しいですか？

黒田：日々に追われていますが、どうなのかな…？毎日のことでいっぱいいっぱいですね。娘がバレーボールを始めたので、お互い5時に帰ってきて、そこでおにぎりとかおうどんとか、何かさっと食べさせ、5時半に出発してバレーボールに連れて行き、その間に買い物などをして、また迎えに行つて8時に帰宅して、8時からご飯を作つて食べる、週4くらいこんな生活です。今までのことを思ったらぐちゃぐちゃです。どうなんでしょうね？誰が評価するのか分からないけど、でも私が自分でこうしようと決めてやっていることなので…

藤長：充実している。

黒田：気持ちは疲れていないですね。体は疲れていますけど。

藤長：今後、お子さんが少しずつ成長されていく

と、また状況が変わってくると思うのですが、その都度、見直しはされますか？

黒田：そう思っています。生活のことも仕事のことも。今の私だからできることだと思って、仕事をお受けすることが多いのですが、そうすると、子どもが大きくなると、また内容が変わってきますよね。もちろんこれから、子どもたちの足も見ますが、小学生や中学生になった子どもたちに関わることもしていきたいと思うようになってきました。仕事も生活も、子どもたちに合わせて変わっていくと思いますね。学童も4年生までしかないですし、やはり子どもの様子を見てということになると思います。子どもの性格もあり、今回、娘に「学童に行かない」と言われていたら、私もすごく変わっていたと思います。その時々で自分の生き方、自分がどう生きたいのかということと、優先順位を合わせながら、一番バランスのいいところを選びながらいきますね。

藤長：先のことを考えることはありますか？

黒田：ふと思うこともありますが、子どもを産んでその時々で変わるし、その時に決めていったらいいと思えるようになりました。子どもを産んだからは、勝手にいろいろ想像して不安になることはなくなりましたね。たぶん、目の前のことにいっぱいいっぱいだから、というのもあると思いますが。

藤長：病気のお子さんを病児保育に預けた時などに、自己嫌悪にかられたとおうかがいしましたが、ご家族やお子さんの存在がプラスになっていると思われませんか？

黒田：今の子どもたちの状況を知ることができるというのは、すごくプラスになったし、育児中のお母さんの気持ちを理解できるとか、地域密着で

やりたいと思っている私にとって、子どもの支援をされている方たちとつながりができたことも大きいです。子どもを支援されている人たちとはよくつながりますね。子どもも私の仕事のことを認識してくれていて、「足の先生」とかよく言いますね。私と子どもがそれぞれにお互いの世界があっていいなと思います。

藤長：お子さんが一緒に出張に行くことはあるのですか？

黒田：あります。イベントなどの時は一緒に行きます。上に乗られたまま、足の計測をしたりします。

藤長：向こうも子どもさん連れなので…

黒田：そうです。だからできるのです。場所によって連れて行っても問題ないかどうか考えますが、そうやって手伝ってくれることもありますし。

藤長：地域密着でいきたいというのは、何かきっかけがあったのですか？

黒田：1人でできることというのは限られているじゃないですか？「日本の人の足をよくしたい」とか「私が世界を変える」とかはできないので、それだったらやはり生まれ育った豊中で、地元の近い人からやっていきたいなという気持ちが一番ですね。すごく地元が好きなんです。

藤長：生まれてからずっと、豊中に住んでいらっしゃるんですか？

黒田：そうです。服部生まれの庄内育ちで今、住んでいるところがまた服部なので。足の神様に呼ばれたと信じて、服部で活動しています。服部天神のあたりは、地元の方たちのつながりが強くて、

すごく面白いですね。

藤長：サロンに来て下さるのも、地元の人が多いのでしょうか。

黒田：そうですね。豊中市内の人が多いです。

藤長：こちらも口コミとかお知り合いが。

黒田：紹介ですね。今までそれ以外で来た人は3人だけです。HPからと、シューフィッターがずっと乗っているHPからという人、他は全員紹介です。

藤長：定期的に来られるのですか？

黒田：どっちもありますね。今、相談したいことがあって、その時だけ来る方と、定期的に毎月爪を切って下さいと言ってくる方と。

藤長：3年されてきて、やっていてよかったと思った時というのは、どういう時でしょうか？

黒田：感謝してもらえることが一番ですね。足と靴が変わると、今までできなかったことができるようになって、生活が変わります。子どもさんがすぐにこけるんですと来られて、靴や履き方を少し修正したら、「帰りからまったくこけなくなりました」と喜んでいただいたこともありました。その人の人生が変わる瞬間に居られることがやりがいですね。特に、自分の大切な親御さんを紹介してもらえる時が一番うれしいです。シニアになってくると足や爪がボロボロになっていくのですが、それを私に任せていただけることに、すごくやりがいを感じています。

藤長：今後の目標はどういったことでしょうか？

黒田：業務としては、やはり1対1のサロンをもっと充実させて、お客様にたくさん来ていただけるようにしたいのと、ここでもこの前イベントをさせていただいたのですが、豊中の子どもたちの足を守りたいという思いがあって、今、豊中で活動している人たちともっとつながって、コラボしたいと思って動き始めています。「足の先生」とか「足が困ったら黒田さん」みたいに思ってもらえる方が少しずつ出てきているので、それをもっと増やしたいと思っています。

藤長：先ほど、セミナーの同期の方と話すと、モチベーションが上がったり相談もできたりするということでしたが、足のことをされているのは黒田さんだけで、他の人たちは違うことをされていると思うのですが、異業種の方とつながることは大事だと思いますか？

黒田：同業の人だけでつながっていると、視野が狭くなってしまうと思いますが、異業種の方との話からヒントを得ることがよくあります。同業の人とお話すると、また違うしんどさがあると思うのですが、そういうのも関係なく、同じタイミングで皆で頑張ろうと言い合って、励まし合える関係です。うちの玄関のリースもKさんに作ってもらったものですし、Mさんとも今も毎年1回、ネイルと私のフットケアとのコラボイベントもしています。私がイベントをする時には、同期の人たちにコラボでの参加や出店者として来てもらうこともあります。

藤長：つながりがずっと続いているんですね。

黒田：そうです。

藤長：話が前後しますが、たとえば病児保育や学童など、起業を続けるにあたっての行政のサポートとして、どういうものがあればいいと思われま

すか？

黒田：私と同年代の人たちは皆、学童が6年まで利用できないとか、利用できる学年でも、休み期間中は給食がないとか、中学生の給食などがネックになっていますね。また、私の場合、チャレンジセンターやすてっぷでセミナーを受けられましたが、そういうセミナー開催の情報や起業に必要な情報というのは、主婦からは全然手に入らないのです。一度つながると、こうやって調べればいいと分かるのですが、セミナーなどに参加できず1人でやっていると自分の周りの情報ばかりになってしまいます。助成金などについての情報も、セミナーに行ったり、関係者とつながったりしていないと入ってきません。起業を考えた時もそうだし、起業後も、情報面がもう少し充実するといえないと思います。私は本当にありがたいタイミングで起業セミナーを受講できましたが、今ではもうないそうですね。

藤長：定期的に起業セミナーがあれば、情報が広まって行って、次に受講してみようかなという人も出るかもしれないですね。助成金にしてもそうですね。

黒田：本当にラッキーなタイミングでした。

藤長：学童も働いていないと利用することは難しいと聞いています。

黒田：育休中も入れないので、育休中のお母さんはけっこう苦しんでいますね。

藤長：そこが緩和されると、ゆるやかに起業された方も続けられるかもしれませんね。

黒田：そうですね。「無理」と思ってしまう環境を、少しでも変えられたらと思っています。働き方と

いうのは、「会社員なのか」「主婦なのか」「自営なのか」みたいなところがあって、どれかに属していないと、「私は何者なんだ」みたいな気持ちで、むずむず、もやもやしている時もありました。学校に通いながら、何とか保育園に行かせてもらっている時というのは、何か自分だけ置いて行かれている感があって、居心地が悪かったです。でもいろいろな働き方があっていいんですよね。私は「少し子ども寄りで、がつつり自営の人でもない」という働き方を選んだのです。そうして自分で考えて仕事と子育ての両立がバランスよくできるようになってきているとも思うし、誰もが人のことや今の状況を気にせず、「こう働きたい」という思いを持って、仕事ができたらいいなと思っています。もちろん、しないといけないことというのはあります。私の場合も、「家のお金は絶対に持ち出さない」など、自分の中でいろいろな決まり事を決めていて、そしてその中で最低限、しなければならないことをした上で、そこからは自分がやりたいことを考えながら、働きながらそのバランスを考えられたらなど。アドバイスの話につながってしまうのですが。

藤長：子育て中の方が起業を考える時に、まず、どういう生き方とか働き方がしたいかを選べる環境が整った方がいいということもありますが、自分でどう決めるかということでしょうか。

黒田：そうなんです。決めてすっきり進めたいんですけど、やはり子どもを産んだ後というのは、動けない自分にもやもやして、情報がキラキラして見えて、置いて行かれたような気持ちになりがちです。たとえば働けなくてうずうずしている人が、同じような立場の人が夜な夜な作った作品をSNSなどに載せているのを見ると、人のマイナス面はなかなか見えないから、それがすごくキラキラして見えて、「私はできない」みたいに落ち込んでしまったり。その期間の焦る気持ちも経験し

ました。これだけの情報社会になると、情報に惑わされてしまいますが、情報に振り回されずに自分を持ってほしいと思います。私もその頃には、そうは思えなかったですけど。

藤長：やはり始められる前というのは、起業をした女性のキラキラした成功例を見ると…

黒田：焦りとかありますよ。

藤長：紹介される人というのは規模も大きくて、順調に成功したように見える方が多いですね。

黒田：そうです。マイナスのことはあまり話さないでしょうから。でも人生、後悔したくないじゃないですか。子どもと関わりが持てるのも今しかないから。

藤長：アドバイスするとしたら、「後悔のないように」ということですか？

黒田：「バランス」「自分のしたいことと生き方」「優先順位」、このあたりは今日のワードですね。何回も言っていることに気づきました。

藤長：そうですね。自分の中で優先順位がきっちり決め切れていないと、それで迷いが出たりするのでしょうか。

黒田：なかなか選べないです。したいこともあるし、でも最低限しなければいけないこともある中で、じゃあそこからどう選ぶかと考えたら生きやすいのかな？がつつりじゃない働き方もあるよと、自分の生き方のバランスを考えるきっかけにしてほしい。正直、女性にはいろいろな制限があると思うんです。出産や育児、育児は別としても、妊娠や出産って女性にしかできないことですから。となると、変化があるごとに生き方も変わる

から、決めつけずにその時その時で、生き方を考えるタイミングってたくさんあるのでね。そこで自分がしたいこととか、大事にしたいことを決めて、進めてほしいなと思います。

藤長：いいアドバイスをいただいてありがとうございました。起業したいと考えている方に近い位置からアドバイスをしていただけると、身近で実現に向けて動こうと思えるんじゃないかと感じました。

黒田：それでもうずうずしている時はキラキラに見えるかもしれませんが、でも、そうじゃないところも伝えたいですね。

藤長：ご自身でバランスを見ながらされているということですね。

黒田：「どんな時でもできることはあるよ」と伝えていただけたらと思います。

藤長：本日はありがとうございました。

黒田：ありがとうございました。